



ありかわ こうぞう
有川光造 さん(日用町)
■石川県森林組合連合会相談役

林業の未来を見据えて

有川さんは林業を営む有川家の6代目として生まれ、林業経営を学び、昭和56年に小松市森林組合(現在のが森林組合)組合長に就任しました。平成10年に那谷工場を建設し、集団間伐を行い、工場へ搬出する新しい仕組みを作りました。平成18年には石川県森林組合連合会会長に就任。昨年、石川県とコマツ、石川県森林組合連合会の3者で「林業に関する包括連携協定」を締結し、チップ化された未利用間伐材をコマツ粟津工場の木質バイオマス燃料に利用する循環型バイオマスシステムの確立に貢献。未利用間伐材の活用モデルとして全国的に注目されています。

「植え、育て、使う林業の循環を目指してきました」と話す有川さん。今年5月に開催された第66回全国植樹祭いしかわ2015では、基本構想検討委員会委員などを務め、大会の成功に力を尽くしました。代々にわたる林業を次の世代にもつなげたいとの熱い思いを胸に、真面目に控えています。う信念を貫き、林業の明日を見つめています。

【林業】

文化賞

受賞おめでとうございます。

小松市文化賞は、科学をはじめ芸術、産業、経済など広く文化の発展に尽くし、活躍された人にお贈りしています。

問い合わせ 広報秘書課 ☎24・8000

農業を次世代へつなぎたい

東田さんは高校生だった当時、加賀三湖干拓事業の話聞き、そこで大規模農業を経営することを志しました。昭和45年に今江潟干拓地最初の入植が決まり「選んでもらえたからには恩返しをしたい」と、一心に農業に打ち込みました。入植当初は、土壌の酸性障害と塩害で米の収量は少なく、約5年間にわたり石灰をまくなど、並々ならぬ努力を重ね、良い土壌づくりに全力を注ぎました。その結果、高品質・高収量の大規模経営を実現。平成7年には小松市認定農業者、石川県農業者として認定され、平成8年から4年間、小松能美地区の中核農家連絡協議会会長を務めました。高い栽培技術により、地域のリーダーとして、同業者の相談役としても心強い存在です。「省力はするが省略はしない」という手抜きを許さない姿勢が、周囲からの厚い信頼につながっています。

「100ヘクタール規模の経営を行うこと、親子3代で農業をすることが目標です」と語る東田さん。常に目標に向かって進み続ける姿に、農業に生き抜くという強い意志が表れています。



とうだ ゆうぞう
東田郁三 さん(拓栄町)
■東田農産

【農業】

フォーラム・小松式土器の時代Ⅱ

小松発

参加無料
定員150人
要申し込み

申し込み・問い合わせ

埋蔵文化財センター ☎47・5713

北陸新幹線ルートの弥生文化を探る

とき 11月29日(日) ところ サイエンスヒルズこまつひとものづくり科学館

小松式土器が語る交流の足跡

北陸新幹線が北陸と信州・関東を結び、人々の往来がますます活発になりました。実は、小松発祥とされる「小松式土器」の研究から、2千年以上前の弥生時代中期にも、このルートが文化交流に大きな役割を果たしたと考えられています。では、このルートが選ばれ、移動したものは何だったのでしょうか。

平成19年2月、長野県中野市柳沢遺跡で、銅戈と銅鐸の埋納跡が発見されました。それまで、青銅器埋納は西日本に集中していたため、この

発見は驚くべき事件でした。その入手経路をめぐって、日本海ルートに注目が向けられたのです。

フォーラムでは、小松発祥の東へ向かう弥生文化交流ルートとその原動力について、総合的に検証します。

埋蔵文化財センター秋季特別展
「北陸新幹線ルートの弥生文化を探る」
とき 12月6日(日)まで
ところ 埋蔵文化財センター
展示観覧料 100円
休館日 水曜日、祝日の翌日



9時50分〜10時50分 特別講演会

弥生時代の「小松文化」 石川日出志(明治大学教授)
東日本に広がる弥生文化の源流が八日市地方遺跡を基点とする「小松文化」にある!? 文化交流の軌跡を語ります。

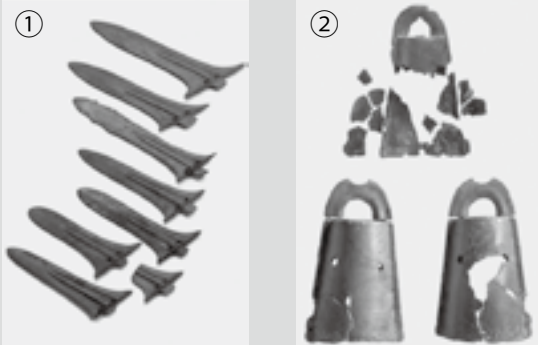
11時30分〜12時30分 基調報告(報告者3人)

13時30分〜15時30分 パネルディスカッション

「小松発・北陸新幹線ルートの弥生文化を探る」
石川日出志氏と基調報告者3人が、玉つくり・金属器生産・各地の土器など、多方面から「小松文化」を検証します。

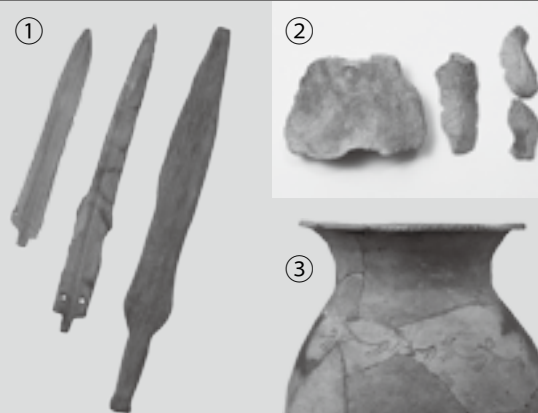
※詳細は市ホームページをご覧ください。

長野県中野市柳沢遺跡出土品



①青銅製武器の銅戈
②銅鐸 ③シカが描かれた土器(全て重要文化財、中野市立博物館提供)

小松市八日市地方遺跡出土品



①青銅製武器を模した木製品 ②銅鐸形土製品
③シカの群れと狩人が描かれた土器(全て重要文化財)